

高校生によるバス利用に関する意見交換会

[1] 企画概要

会場：沖縄県教職員共済会館「八汐荘」

日時：平成29年12月11日（木）17:00～19:00（2時間）

共催：沖縄県(企画部交通政策課)/わった～バス党

運営：株式会社がちゆん（企画、ファシリテーター）

参加者：高校生15名(那覇国際高等学校、首里高等学校、那覇高等学校、小禄高等学校、
那覇工業高等学校)、沖縄県教育委員会、沖縄県高等学校PTA連合会、バス4社、
沖縄県バス協会、沖縄ICカード(株)、沖縄県交通政策課 **合計31名**

進行役：メイン進行1名、各テーブル進行補助3名

目的：この意見交換会を通して、高校生とバス事業者とがバス利用促進策を検討、共有しバス利用の環境改善を図る。また、この機会を通して、社会変革の一員となり成功体験を経験する。

[2] タイムスケジュール

時間	タイトル	内容
16:30	開場	
17:00	アイスブレイク	バスに関するクイズ
17:15	体感ワーク	ロールプレイングをすることで、「高校生がバスに乗る理由」と「高校生がバスに乗らない理由」を考える
17:50	沖縄県バス協会によるレクチャー	「人々がバスに乗らないことによって沖縄に起きている問題」を講義する
18:05	ディスカッション	「人々がバスを利用するようになったら、社会はどう変わるのか」を考えることで、「高校生がバスを利用しやすくなるアイデア」を議論する
18:20	バス事業者へのプレゼンテーション	これまでの時間で考えてきた内容や解決策をバス事業者へ発表する
19:00	閉場	

[3] プログラム内容

<アイスブレイク>

目的：チームでこれから議論するための雰囲気作り。アイデアを出すための柔軟な頭作り。

内容：バスに関するクイズを出題し、チームで話し合い、答えを出してもらった。クイズ内容は、戦後のバスの歴史やバスの乗車人数、始発バスと最終バスの時間など。

結果：高校生同士は初対面であったが、チームで協力してクイズの答えを考えることで次第に打ち解け、活

発に意見交換をすることが出来た。また、バスを普段利用せず、バスが身近に無い高校生にとっては、バスの存在を身近に感じられる機会となった。

<体感ワーク>

目的：高校生の身近な生活の様々な場面において、バスを利用する場合と利用しない場合の気持ちの違いを体感する。

内容：ロールプレイングを通して、高校生の生活における様々な場面で、バスを利用する場合と利用しない場合にどのような気持ちになるかを体感する。例えば、「朝の通学でバスを利用し、バスレーンを通りスムーズに学校に到着する」場合と、「朝の通学は家族の車で送ってもらい、渋滞に巻き込まれる」場合に、前向きな気持ちを感じるか、後ろ向きな気持ちを感じるかを表現してもらおう。1つ1つの場合における感情が生まれた理由から、「高校生がバスに乗る理由」と「乗らない理由」を考え、最大の理由をそれぞれ一つに絞る。

結果：1つ1つの場面を、参加高校生自身の生活と照らし合わせ、どう感じるのか真剣に考えている様子が見られた。バスに乗る理由としては、モノレールより行ける範囲が広い、市内線は運賃が安い、家族の負担が減る、などが挙げられ、乗らない理由としては、時間通りに来ない、路線を調べるのが面倒、誤って料金箱へ超過額を投入した場合にお釣りが出ない、など具体的な理由がどのグループからも挙げられた。

<沖縄県バス協会によるレクチャー>

目的：人々がバスを利用しないことで沖縄に起きている問題を知る。

内容：沖縄県バス協会に「人々がバスを利用しないことで沖縄に起きている問題」をお話ししてもらおう。渋滞の発生や、環境問題だけでなく、人々がバスに乗らなくなると、バス路線が減少し、地域の過疎化が進むという問題が発生する。

結果：これまで高校生の身近な生活におけるバス利用に関して議論を重ねてきたが、高校生自身の行動が社会にも大きな影響を及ぼしていることが分かった。

<ディスカッション>

目的：高校生がバスを利用しやすくなるためのアイデアを考え、アイデアの優先順位をつける。

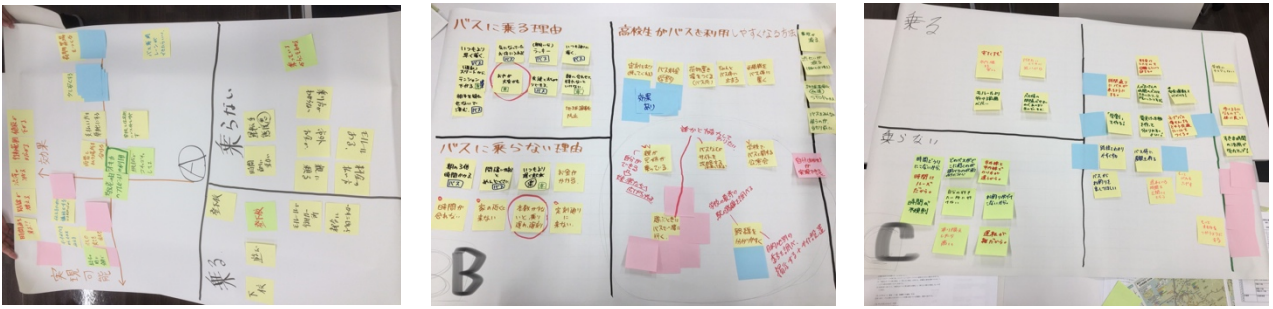
内容：レクチャーでの要点を踏まえて「人々がバスを利用するようになったら、社会はどう変わるのか」を考える。次に「どうしたら高校生はバスを利用しやすくなるのか」のテーマでアイデア出しを行う。ここで出たアイデアをマトリクス(効果、実現可能性)にまとめた。

結果：「人々がバスを利用するようになったら、社会はどう変わるのか」のテーマでは、渋滞が減る、事故が減る、地球温暖化の加速が止められる、歩く機会が増え健康な人が増える、などの考えが話し合われた。また、「どうしたら高校生はバスを利用しやすくなるのか」のテーマでは、オキカの普及、学割料金の設定、路線図を分かりやすくする、荷物置き場の設置、バス利用に関する勉強会の開催、などのアイデアが出された。

以下に今回の高校生から出た意見を記述する。(あくまでも高校生視点での意見です)

	アイデア	効果	実現可能性
A グ ル ー プ	学校の総合の時間でバス乗車体験を全員で行う	高	高
	両替と払う場所を変える	中	中
	支払い方を単純にする →バス会社回答：OKICAを導入している	—	—
	バス車内に荷物の置き場を作る	中	低
	少し安くする	中	
	バス会社の方がバスの乗り方を伝えるための講話を行う	中	高
	バス専用レーンができれば良い →バス会社回答：すでに専用レーン（時間帯別など）がある	—	—
B グ ル ー プ	バスナビの使い方を攻略する		
	学校でバスに関する講演会		
	自分たちが遊びに行く時はバスで移動する	高	高（自分たち で努力する）
	路線を分かりやすくする →学校周辺のバス停の路線を自分たちで調べる	高	高
	目的地別の番号を調べ、掲示するサイトを設置する	高	— 分からない
自分がバスに乗ることで親や兄弟にも広める	高	高	
C グ ル ー プ	料金システムを統一する →バス会社回答：OKICAを導入している	—	—
	時間通りにバスが来るようにする		
	必ずバスを優先にするというルールを作る →バス会社回答：すでにバス専用レーンと罰則がある	—	—
	人が多く乗る時間帯のバスは大きくするか二階建てにする	高	低
	バス乗車運賃に学割を作る	高	中
	電光掲示板を作って分かりやすいようにする	中	中
	バスからお釣りが出るようにしてほしい	中	低
	遅れている時間を公開する	中	中
もっとバスを増やす	低	低	

[アイデアの効果、実現可能性の2軸でアイデアを検討した]



<バス事業者へのプレゼンテーション>

目的：高校生とバス事業者でアイデアの実現に向けた意見交換をする。

内容：高校生が考えたアイデアをバス事業者にプレゼンテーションする。バス事業者は、アイデア実現に向けたアドバイスや、協力可能な内容を回答し、アイデアの実現に向けて意見交換を行う。

結果：アイデアの中で、既にバス事業者が検討済の事項もあり、高校生は新たな知識として知ることが出来た。また、バス事業者の経験に基づくアドバイスを取り入れることで、高校生のアイデアがより具体的に醸成された。バス事業者と意見交換した高校生からは、バスナビの使い方を友達に伝える事など、すぐに実行できることは翌日から始める、という声が聞かれた。

[4] 総括

今回の意見交換会は、今年度のバス利用促進座談会の際に、高校生がバス利用に関する知識が少なく（経路が分からない、乗り換えが難しい等）、移動手段としてバスを利用するという選択肢に繋がりにくいという現状が明らかになったため、高校生とバス事業者とがバス利用促進策を検討、共有しバス利用の環境改善を図るための場として開催した。

本会議の成果としては、高校生に対してバスを利用すべきだと一方的に考えを押し付けるのではなく、バスに関する正しい知識を得て、高校生の身近な生活に即して考えたことで、前向きにバス利用促進に関する議論を重ね、バスを利用することを高校生自身が自らの意志で選択できることが可能になった。依然として、バス会社のみが問題を抱えているというような意見もあったが、高校生が協力してバス利用促進をするにはどうしたらいいかという話し合いを行うことができた。これらは実際にバス事業者と意見交換をし、関係性が構築され、高校生自身が社会の一員であるという意識が生まれたことが理由ではないかと考える。今回の意見交換会の目的は、高校生とバス事業者とがバス利用促進策を検討、共有しバス利用の環境改善を図ることに加え、この機会を通して、社会変革の一員となり成功体験を経験することであり、この目的は達成されたと考える。今年度第三回のバス利用促進座談会では、今回の意見交換会の振り返りと、今後より高校生がバス利用促進するための展開を議論する。以上が本会議の成果である。